

令和8年度

試験名：個別学力検査（後期日程）

【情報学群 知識情報・図書館学類】

区 分	標準的な解答例及び出題意図
小論文	<p>問題 1</p> <p>問 1 ＜出題意図＞ 論理的思考力、表現力</p> <p>＜解答例＞ デンタル・サフィックスによって過去時制をあらわすという、より簡単で覚えやすいシステムが普及し、多数の不規則動詞が規則動詞に変化した後も、使用頻度の高い動詞については、日常的に使用されることで、そうした変化が生じにくく、母音交替によって過去時制をあらわすという、より古いシステムが維持されたため、依然として不規則動詞も存在している。(165 字)</p> <p>問 2 ＜出題意図＞ 論理的思考力</p> <p>＜解答例＞ 計算式：$\sqrt{400}$ 答え：20 倍</p> <p>問 3 ＜出題意図＞ 表現力、発想力</p> <p>＜解答例 1＞ ここでは、電子書籍と紙の本を取り上げる。電子書籍は保管場所を必要とせず、スマートフォンなどの端末さえあれば多数の書籍を保存し持ち運ぶことができるため携帯性に優れている。また、暗い場所で明かりのない場合であっても読むことが可能である。入手の際も、書店などに足を運ぶことなく即座にダウンロードできるなどの利点が存在している。その一方で、紙の本はページをパラパラとめくりながら読むことで内容を見渡しやすい。とくに絵本のような大型でページ全体を閲覧したい場合に一覽性に優れている。また、紙をめくる感触そのものに魅力を感じるという人もあり、読んだ内容が記憶に残りやすいと考える人も存在する。さらに、本棚に並べてインテリアとして楽しめるなど、物理的なモノとしての価値を備えている。このように両者は情報伝達という点で同じ機能を持っていながら、異なる消費財と捉えられていることから、現在も併存していると考えられる。(399 字)</p> <p>＜解答例 2＞ ここでは、電子メールと手紙やハガキを取り上げる。電子メールは、インターネットに接続された端末があれば即座に送受信が可能であり、送受信のたびに郵送費を必要としない。また、複数の宛先に同時送信できるほか、テキスト以外のファイルを添付することができ、過去のメールの検索や転送も容易である。その一</p>

方で、宛先ミスや誤送信による情報漏えい、フィッシングメールによる被害などの懸念点も存在する。手紙やハガキは、作成と投函に手間がかかり、配送日数や切手代などのコストも必要となるだけでなく、遅延や紛失といった物理的なリスクも伴う。その一方で、丁寧さや誠意が伝わると感じる人も多く、とくに直筆の場合はその傾向が顕著である。手紙やハガキが担ってきた機能の多くを電子メールが代替していると言えるものの、年賀状や暑中見舞いといった文化的慣習においては、いまなお手紙やハガキは用いられ続けている。(385字)

問題 2

問 1

<出題意図>

論理的思考力、表現力

<解答例>

出場者が最初に選択したドアを変更しなかった場合、裏側に新車のあるドアを選択する確率は3分の1のみであるが、ドアの選択を変更した場合、その確率は3分の2に上昇することから、選択を変更すべきである。(99字)

問 2 (1)

<出題意図>

論理的思考力

<解答例>

Marilyn vos Savant

問 2 (2)

<出題意図>

論理的思考力、表現力

<解答例>

その女性が知能検査で最高得点であったことがギネス世界記録に掲載されていたから。(39字)

問 3 (1)

<出題意図>

論理的思考力

<解答例>

計算式： $1 \div 5$

答え：0.2 (20%)

問 3 (2)

<出題意図>

論理的思考力

<解答例>

計算過程：出場者が最初に新車の隠されているドアを選択する確率は $1/5$ であ

り、その場合、司会者の開かなかったドアに新車が隠されている確率は0となる。また、出場者が最初にヤギの隠されているドアを選択する確率は4/5であり、その場合、司会者の開かなかったドアに新車が隠されている確率は1となる。したがって、計算式は $1 \div 5 \times 0 + 4 \div 5 \times 1 = 0 + 0.8$ となる。

答え : 0.8 (80%)